

Journal of Toxicologic Pathology

Online ISSN : 1881-915X

Print ISSN : 0914-9198

ISSN-L : 0914-9198

[資料トップ](#) [早期公開](#) [巻号一覧](#) [この資料について](#)

最新号

選択された号の論文の5件中1~5を表示しています

Case Report

Histopathology of fused triplet placenta in rat

Satoshi Furukawa, Naho Tsuji, Seigo Hayashi, Yusuke Kuroda, Masayuki K...

2023年 36巻 4号 p. 187-192

発行日: 2023年

公開日: 2023/10/06

[早期公開] 公開日: 2023/06/05

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2023-0026>[ジャーナル](#) [オープンアクセス](#)[抄録を非表示にする](#)

妊娠15日目のWistar Hannoverラットに癒合した三つ子胎盤が観察された。この癒合胎盤の各胎盤（PL-A、PL-B、PL-Cとする）にはそれぞれ1胎仔ずつ胎仔が癒着していたが、その胎仔の体重はこのダムの唯一の正常胎盤（PL-Nとする）に癒着していた胎仔の体重よりも低かった。病理組織学的には、PL-BとPL-Cでは絨毛隔壁の菲薄化と迷路帯の母洞の拡張が観察されたが、PL-AとPL-Nでは観察されなかった。胎盤の融合点は、結合組織のない胎盤の両側に由来する接合帯であり、隔壁は栄養膜巨細胞で構成されていた。PL-Aは単独の後房腺を有していたが、PL-BとPL-Cは1つの後房腺を共有し、1つのらせん動脈末端が各迷路帯に向かって分岐していた。

[PDF形式でダウンロード \(5991K\)](#)

Smooth muscle hamartoma of the lungs in a Wistar Hannover rat

Shinya Miyazaki, Chinatsu Fujiwara, Yoshitaka Katoh, Tsuyoshi Ito, Aya ...

2023年 36巻 4号 p. 193-198

発行日: 2023年

公開日: 2023/10/06

[早期公開] 公開日: 2023/07/07

[DOI https://doi.org/10.1293/tox.2023-0056](https://doi.org/10.1293/tox.2023-0056)

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

過誤腫は、正常組織要素が無秩序に形成された腫瘍様腫瘤である。現在までに、自然発生的な過誤腫はげっ歯類のいくつかの臓器や組織で報告されているが、肺では報告されていない。ここで我々は、108週齢の雌のWistar Hannoverラットの肺にできたハマルトーマの最初の症例を報告する。肉眼的には、左肺の肋骨表面に直径7mmの白斑が観察された。病理組織学的には、気管支に隣接する結節性病変は成熟平滑筋細胞から構成されていた。病変は被包されず、周囲組織を圧迫することなく肺胞壁と気管支に沿って広がっていた。結節では、弾性線維が第VIII因子関連抗原陽性の内皮細胞で裏打ちされた小さな管腔を取り囲んでいた。この構造は、小結節が動脈を模倣していることを示唆した。さらに、周囲組織の平滑筋細胞の増加により、細気管支と細動脈に構造異常が観察された。これらの特徴から、この症例は新生物というよりもむしろ組織の奇形であることが示唆され、肺の平滑筋過誤腫と診断された。

[PDF形式でダウンロード \(3866K\)](#)

Short Communication

Identifying the dataset to define the optimal timing of histopathological examination for central nervous system toxicity in MPTP-induced Parkinson's disease monkey model

Hironobu Yasuno, Yasushi Masuda, Harushige Ozaki, Tomoya Sano, Tadahir ...

2023年 36巻 4号 p. 199-204

発行日: 2023年

公開日: 2023/10/06

[早期公開] 公開日: 2023/05/24

[DOI https://doi.org/10.1293/tox.2023-0010](https://doi.org/10.1293/tox.2023-0010)

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

神経毒性を評価するためには、被験物質曝露後の病理組織学的検査の最適なタイミングを決定することが極めて重要である。しかし、サルの中樞神経系（CNS）毒性の病理組織学的検査の最適なタイミングを定義するための理想的なデータセットを特定することに焦点を当てた研究はない。そこで本研究では、サルの中樞神経系毒性の病理組織学的検査に最適なタイミングを選択するための指針となる予測エンドポイントを定義することを目的とした。4頭のカニクイザルに1-メチル-4-フェニル-1,2,3,6-テトラヒドロピリジン（MPTP）を0.6 mg/kgの用量で1週間間隔で2回静脈内投与した。最終投与から1週間後に剖検を行った。パーキンソン病評価（PR）スコア、脳脊髄液（CSF）および血清中のニューロフィラメント軽鎖およびグリア線維酸性蛋白濃度の経時的変化を評価し、脳の病理組織学的所見と比較した。MPTPを投与したすべての動物のPRスコアは、ある程度の個体差はあるものの、10日目から11日目にかけて上昇した。顕微鏡的には、すべての動物で黒質束にミクログリオシスの有無にかかわらず、軸索の腫脹と空胞化が認められた。しかし、実質的な神経変性所見は、剖検時にPRスコアが高かった動物でのみ観察された。剖検時のCSFバイオマーカー値のわずかな上昇もPRスコアの高い動物で観察された。しかし、これらの動物における顕微鏡所見との相関はなかった。

これらのデータは、PRスコア単独または他のCSFバイオマーカーと組み合わせた包括的な臨床観察が、毒性障害後のサル解剖学的中枢神経系評価を引き起こす潜在的指標としてさらに評価される可能性を示唆している。

[PDF形式でダウンロード \(2444K\)](#)

Pathological analysis of lesions in the exocrine pancreas of rats induced by Zinc Maltol

Sakura Fujiwara, Takayasu Moroki, Masaya Hitomi, Makoto Sato, Yui Tera ...

2023年 36 巻 4 号 p. 205-211

発行日: 2023年

公開日: 2023/10/06

[早期公開] 公開日: 2023/07/13

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.2023-0063>

ジャーナル オープンアクセス

抄録を非表示にする

膵臓は、栄養学的に必須な金属である亜鉛 (Zn) の恒常性維持に重要な役割を果たしている。いくつかの先行研究において、Znイオンは外分泌膵臓に炎症性変化を誘導したが、Zn錯体についてはほとんど知られていない。本研究では、亜鉛 (II) 錯体であるZinc Maltol (ZM) を4週間反復経口投与したSprague-Dawley (SD) ラットの膵臓病変を顕微鏡的、免疫組織化学的、および超微細構造的に検討した。ZMは腺房の萎縮を誘導し、管状構造の数を増加させた。免疫組織化学的には、トリプシン陽性細胞数の減少、SOX9陽性細胞数の増加が認められた。間質性線維化とマクロファージ浸潤もまた、腺房萎縮の程度と相関していた。電子顕微鏡による評価では、顆粒を失った腺房細胞は線維芽細胞と膠原線維に囲まれていた。結論として、我々はSDラットにおけるZM誘発膵病変の詳細な説明を行った。

[PDF形式でダウンロード \(3900K\)](#)

Retraction

Retraction: Nuclear Morphometric Analysis of Leydig Cells of Male Pubertal Rats Exposed *In Utero* to Di(n-butyl) Phthalate

Shin Wakui, Masaya Motohash, Takemi Satoh, Masaru Shirai, Tomoko Mutou ...

原稿種別: Retraction

2023年 36 巻 4 号 p. R1-

発行日: 2023年

公開日: 2023/10/06

DOI <https://doi.org/10.1293/tox.36.R1>

ジャーナル オープンアクセス

[PDF形式でダウンロード \(289K\)](#)

編集・発行 日本毒性病理学会
制作・登載者 株式会社アイペック

DeepL translation / AEIC trial